

八王子市立館小中学校 令和7年度 学校経営方針 (◎重点目標)

【校訓】笑顔笑声 本校の校訓「笑顔笑声」に込められた思いは、「笑顔笑声」の碑の裏面に「校訓に込めた願い」として刻まれている。子供たちを「自分も相手も笑顔にし、笑い声を絶やさない人」に育てたい。相手とは、人間のみならず動植物も含め生きとし生けるもの全てである。 自分の周りがいつも笑顔と笑い声で包まれるためには、常に自分自身を高め、思いやりのある関係づくりへの努力が必要である。その基盤を本校9年間の義務教育で育成し、卒業後もこの願いを大切に人生を歩むことを期待する。	≪小学部の教育目標≫ ◎考える子 ○明るい子 ○やさしい子 ○はたらく子	≪小中一貫教育目標≫ ○高める自己 ○かがやく笑顔 ◎あふれる元気 スローガン 『好きです、館小中』 連綿と受け継がれてきた校史をリスペクトし、持続可能な教育活動へ	≪中学部の教育目標≫ ○主体的に生きる生徒 ○心豊かに生きる生徒 ◎逞しく生きる生徒	【経営理念】 館に集う全ての生命と人権の尊重 小中一貫教育全体構想のめざす「よく考え、すすんで学習し、自己を高め続ける児童・生徒」に必要な資質・能力を育成するために、小中一貫カリキュラムを活用した見通しのある9年間の義務教育の創造を通して、校訓「笑顔笑声」を具現化した一貫校と地域づくりをめざす。また、地域運営学校として地域や保護者の願いを踏まえ、これからの変革が大きい社会を主体的に生きるための資質・能力を育むために、人権尊重の精神を基盤に、自主・自律を図りながら心身共に健やかな人間を育成することをめざして、教育目標を定める。
	目指す児童・生徒像 ◎主体的に学ぶ児童・生徒 ○他人を大切にする児童・生徒 ○心身ともに健全な児童・生徒 ○地域に貢献する児童・生徒			
	目指す学校像 ◎9年間で育てる学校 ○自己有用感が高まる学校 ○居心地がよい学校 ○信頼される学校			
	目指す教師像 ○学ぶ意欲に火をつける教師 ○潜在能力を引き出す教師 ◎自ら学び続ける教師 ○公立学校の使命を自覚する教師			
	中期的目標と方策 義務教育9年間を見通して、発達の段階に即したねらいを設定した重点的な指導を展開する。 第Ⅰ期（小学校前・中期、小1～小4） 基礎基本を繰り返していくことで、習熟を図る。 第Ⅱ期（小学校後期・中学校前期、小5～中1） 基礎基本を活かして思考力・判断力・表現力を付ける。 小学部教科担任制導入による小中の一層の円滑な接続。 第Ⅲ期（中学校後期、中2～中3） 基礎基本を応用して活用し、適性・能力を伸ばす。 義務教育修了 心身とも健康で、自ら考え行動できる、社会性・人間性豊かな児童・生徒へ。			

(1)【学校経営】 ①生命・人権の尊重 ◎命の大切さ 全教育活動を通して発達段階に即した生命・人権尊重の教育を推進する。 ・人権感覚の錬磨 ・人権教育の推進 ・多様性理解 ②小中一貫教育 ◎高学年～中1 校訓、教育目標の具現化をめざして小学部、中学部、小中一体のそれぞれの良さを活かして9年間の切れ目のない教育活動を推進する。 ③小学部教科担任制 ○拡大の可能性 高学年及び中学年（一部）においても本校の独自性を探り、その実践・検証を行う。 ④教師の資質能力の向上 ○積極的な研修参加 職層や課題に応じた研修を計画的かつ積極的に受講するとともに、得た最新情報を周囲へ還元する。 ⑤公務員の自覚 ◎サービスの厳守 体罰防止、個人情報情報の適切な管理、交通事故の防止について、研修を通して自分事として捉え、サービスの厳正と当事者意識の向上に努める。 ⑥小規模化対策 ○行事の見直し 現行実施の各行事内容（秋の文化的行事、中学部のスキー教室等）を継続的に見直し、持続可能な教育活動の在り方を検討する。	(2)【学習指導】 ① 基礎基本の徹底定着 ◎未達成者0をめざす 「はちおうじっ子ミニマム」を活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、生徒と教員のさらなる良好な関係づくりをめざす。 ②授業のユニバーサルデザイン化 ◎めあて提示 わかりやすい指導体制を構築するために、「めあて」「本時の流れ」「振り返り」の提示、チョークの色、板書の構造化を工夫する。 ③教える→学ぶ ○協働的な学び 主体的に学び合う協働的な学びを進める。教え合い学習により定着が進む授業を工夫する。 ④適正で信頼される評価 ◎評価の観点 適正な評価材料の明確化し、指導と評価の一体化を進める。信頼される評価・評定の研修を実施。 ⑤学習用端末 ◎情報化社会を生きる 発達段階に応じて、学校や家庭で日常的かつ効果的に活用し、目的に応じた能力や情報技術の利用に関する適切で責任ある行動規範を向上させる。 ⑥考える、議論する道徳 ○外部講師活用 道徳的価値や多様な考え方や感じ方に出会うため、考える、議論する道徳の授業を行う。ローテーション授業の取入れや外部講師を活用する。	(3)【生活指導・進路指導】 ①年間生活目標「あいさつ励行」 ○主体的取組 児童会・生徒会の主体的取組等により目標の達成をめざす。教員も率先垂範する。 ②不登校対策 ◎つながるプラン 「個票システム」の活用、不登校生徒の早期把握、セミオーダーメイド型の支援体制、心地の良い空間づくり、外部連携を進める。 ③いじめを許さない学校 ○SSTの検討 グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングにより、より良い人間関係、居場所のある教室環境を構築する。情報共有と未然防止の徹底。 ④特別支援の充実 ◎インクルーシブ教育 通常学級における特別支援教室巡回指導員の授業を実施し、発達障害についての理解を深め、良好な人間関係を構築する力を養う。 ⑤安全教育 ○未然防止 児童・生徒自ら主体的に判断し行動できる力を育む 事故の未然防止、安全指導の徹底。 ⑥キャリア教育 ○責任と自己実現 体験活動等に基づいたキャリア教育の充実を図る。責任と自己実現。	(4)【特別活動他】 ①学校行事 ◎小中合同一体化 小中合同の体験的な活動を通して集団への所属感や連帯感を深める。今後も持続可能な行事の在り方を検討する。 ②異年齢交流 ○保幼小中 保幼小中の交流を通して、児童・生徒・教員が相互の発達段階の理解を深め、小学部及び中学部への円滑な移行に備える。 ③部活動改革 ◎令和9年度へ向けて 令和9年度の地域移行完全実施へ向けて、本校の実態に合わせた持続可能な活動と地域と連携した活動の融合を図る。 ④児童会・生徒会 ○いじめ防止 はちおうじっ子サミットの機会を活かして小中合同でいじめ防止の主体的な取組を行う。 ⑤ボランティア活動 ○自己有用感 地域活動への主体的・積極的な参画によって児童・生徒の自己有用感の高揚を図る。 ⑥家庭・地域との連携 ○周知・説明・理解 学校運営協議会の熟議を経た学校経営を推進する。教育活動の周知・説明、理解と協力。
--	--	---	--

サービスの厳守（本年度の重点項目）				
①児童・生徒性暴力等の根絶	②体罰、不適切な指導、暴言等の防止	③個人情報の適切な管理	④交通事故防止の徹底	⑤通勤の適正化の徹底